



佐土原ロータリークラブ週報



会 長：佐藤 高 元 幹 事：太 田 忍
 副 会 長：梶田與之助 会報委員長：林 厚 雄
 会 計：村 岡 博
 事 務 局：〒880-0211 宮崎市佐土原町下田島 11703-18
 TEL：0985-62-7833 FAX：0985-62-7877
 携帯：090-9596-6114 吉野由里子
 例 会 日：毎週水曜日
 例 会 場：ハイビスカス ゴルフクラブ
 TEL：0985-73-0109

2月14日プログラム予定・・・奉仕プロジェクト
 2月21日プログラム予定・・・クラブ管理運営

第963回 平成19年2月7日(水)

本日のプログラム

- 1. 点 鐘
- 2. ロータリーソング
「それでこそロータリー」
- 3. 会 長 の 時 間
- 4. 幹 事 報 告
- 5. 今月のセレモニー
- 6. 会員卓話「正岡君」
- 7. 点 鐘

第962回の記録 平成19年1月31日

★ 会長の時間 佐藤 高元 君
 皆さん今日は。突然ですが、「ロータリー」という名称が選ばれた理由について、次の3つのうちに正しいのは何番ですか、
 ①「Friend」に相当するインディアン語だから
 ②初期の徽章が四輪馬車の車輪だったから
 ③初期の会合は会員の事業所で輪番に開いたから、
 1月の最後の例会です。1月はロータリー理解推進月間でした。いつの間にか1ヶ月が過ぎてしまいました。ロータリーを知ることについては、会長と言う立場上例会の準備もあっていくらかは知る努力をしなければなりません。しかし、ロータリーの内容は実に広範囲で、内容が豊富です。どこをどのように理解していけばよいのか、手のつけようがないと言うことが良く分かったくらいの事、理解については余り進歩していません。

ロータリーの友1月号に「テスト前一夜漬けの試験勉強みたいに、ただ覚えるだけではなく、なぜそうするのかを理解し活動に参加することが知ることである」と述べてあります。

ロータリーの情報は、雑誌、メディアを通じて誰でも簡単に入手できます。本当の意味でロータリーを理解する為には、一夜漬けではなく長年に渡る積み重ねがロータリーを知るためには必要であることも分かった様な気がします。さらに、自分がロータリーの事を知っていなければ、周りの人にロータリーを知ってもらうことは出来ないだろうと言う言葉も其の通りだと思います。

R Iが昨年度アメリカで実施した「ロータリーイメージ調査」の結果がロータリーの友1月号に出ています。この調査は、一般の人々がロータリーに対してどのようなイメージを抱いているかを調査したものです。調査における有効回答数は674件、其中でロータリーを知っている、名前を聞いたことがあると言う答えが3分の1の32.9%聞いたことが無いのは50.1%でした。知っていると答えた222件の中には、道路に設けられているロータリーの事、ロータリーエンジンのこと等、間違って理解している人や、詳しいことは知らないと言う人もいてこれらを除くと、ロータリーを知っている人は回答数の10分の1であったと報告されています。世界168カ国、3200のクラブで120万のロータリアンが奉仕の理想によって結ばれ、世界平和を推進していくために努力している姿をもっと理解して欲しい。そして、一緒に頑張っていく輪を広げて行きたいと願っています。そのためには、もっと広報活動に力を入れなければならないことを、理解推進月間の終わりに、みんなで再度確認したいと思います。広報活動の方法としては、メディアにとって自分達の活動の様子を紹介して、周りの人々に知ってもらう活動も必要ですが、周りの人々に関心を持ってもらわなければ広報の効果はありません。つまり、地域社会の方々にどのようにして関心を持ってもらうかが「裏へ続きます」

重要な課題になってきます。その課題を解決する為には、一人ひとりのロータリアンが普段から地域社会の人々とどのように良い関係を築いているかにかかわってくることになります。そこが広報活動の一番大切なねらいでもあることもロータリーの友で勉強することができました。

★幹事報告

太田 忍君

※ 例会変更通知

- ◎ 都城ロータリークラブ
- ◎ 都城北ロータリークラブ
- ◎ 都城西ロータリークラブ
- 日時 平成19年2月4日(日)
- 場所 中山荘 IMのため
- ◎ 都城中央ロータリークラブ
- 日時 平成19年2月8日(木)19:00~
- 場所 ル・パリ

★ 米山功労賞を受けた浜田松太郎君 と米山奨学委員会の正岡文郁君



★ 会員卓話 垂水 敏雄 君
佐土原ロータリークラブがR Iへの加盟を認証されたのは1988年(昭和63年)1月8日です。その頃は短期間の代役会員という気持ちがあったので、「ロータリーの友」誌などもざっと目を通す程度でした。

(実は現在も似たようなものですが。)

最近古本類を整理していると、数冊の「ロータリーの友」誌の中に1988年1月号が混じっていました。何とかロータリー会員歴20年を迎えようとしている時に、入会初期の「ロータリーの友」誌と再会出来た事を奇縁に思いながらページをめくるとR I会長チャールズC・ケラー氏の「ロータリー理解推進月間について」と題するメッセージが目飛び込んできました。

その要旨は、「この月間中に自分の部屋で一時間でもよいから黙想の時間を持ったらどうだろうか」

例えば

- ◎自分にとってロータリーは何を意味しているか
 - ◎どうしたらロータリーを自分にとってもっと意味あるものとする事が出来るだろうか。
 - ◎どうしたらもっとよく奉仕し、人々にとってロータリーをもっと意味あるものとする事が出来るだろうか。
 - ◎国際ロータリーをもっと強力な組織とするにはどうしたらよいだろうか。
 - ◎地域社会・事業仲間・家族友人などにロータリーをもっとよく知ってもらうためにはどうしたらよいか。
 - ◎世のため人の為に役立つ活動の出来る人間であるか。
- 等を考えてはという提言であった。

ロータリークラブは寄付団体でも、慈善団体でも、ボランティア団体でもなく、一言で言えば、倫理を提唱することによって世のため人の為に動いて行こうという団体であること深川純一P Gは言明されています。佐土原ロータリークラブの皆さんは実業や専門職業のリーダーであります。

よきロータリアンとして社員や従業員の育成に尽力されているお姿に敬意を表しています。「一部省略させていただきました。」

~ MEMO ~

出席状況 第959回 平成19年1月10日

会員数	30名	欠席者数	4名
出席者数	26名	メイクアップ	0名
出席率	86.0%	修正出席率	86.0%

言動はこれに照らしてから

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか